

座談会

手づくり放送新時代がやってきた



ミニ局としては、かなり機材も充実している「FMひがしむらやま」のスタジオ

電波法の規制を受けない「微弱電波」を使ったミニFM放送がさかんである。「どうせ放送するならば少しでも広い範囲に」と電波を強くしすぎて、東京では二人が同法違反で逮捕される事件も起きた。ボクもワタシも即席DJ、名キャスターという目新しさへの興味からひと皮むけ、新たな地域メディアとして注目を浴びつつある、この手づくり電波。現状と今後を、新規参入希望者へのガイドも含めて、考えてみた。(編集部)

——ミニFMといっても、さまざまな中身と方向性を持った局が出てきています。きょうろは、それぞれに特色を持った三つの局のかたに集まっていたら、今回の摘発についての見方や今後のミニFMのありかたなどについて話し合っていたらいいと思えます。まず各局の自己紹介からお願いします。

矢野 東村山という東京西部の「辺境」で、地域に根ざった持つコミュニケーションを作ろうと八四年一月、放送を始めました。日曜を除く毎日、ニュース、市役所のお知らせ、文学作

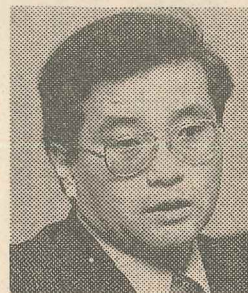


●ラジオコメディア杉並DJ 松井靖久氏

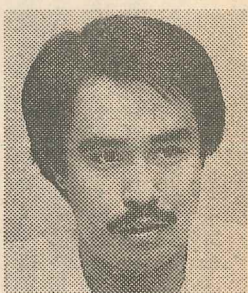
品朗読、DJなどの中身です。NHK教育テレビみたいだ、という人もいます。メンバーは中学生から六〇代まで約六〇人。番組紹介のパンフレットを市役所、公民館や書店などに置かせてもらっています。

松井 八三年一〇月に開局しました。ミニコミ雑誌じゃないけれど、マスメディアにのらないものを電波を使ってやっていこうというわけです。都会の住宅地である杉並で、大きな社会的話題をマスメディアと違った切り口で論評したり、市民運動家でもある区議の、区政とからめた生活ニュースを流すなどで、放送は週二回。もともと、何かやりたい人間の「溜まり場」として始めたので、送り手イコール聞き手、ぐらいの規模でしたが、だんだん地元の商店会の人たちにも認められてきました。

——今回の摘発は、電波が強すぎたという理由でしたが、そのあたりはどうしていますか。  
矢野 いざ放送を始めようとした時、電監(関東電気通信監理局)から、「電波法の許容限度を超えていないか」と注意され、電監自体は測定してくれないので測定装置を入手するなどで、その問題をクリアするのに四カ月かきました。



●FMひがしむらやま代表 矢野穂積氏



●K-ARP代表 宮本秀明氏

出席者

松井 摘発の一週間後に、私たちがいくつかのミニFM局の人に集まってもらって問題点を話し合い、それをライブで放送しました。テープをとっておきましたから、これを活用してくださる所があれば、お送りしたい。

宮本 「KYFM」にCMが入ったのが気になるんです。スポンサーめいたこと、ミニFMはやっちゃいけないと思うんですよ。ベースはマスターベーションだ(笑)。それで、一生懸命マスターベーションしているのが悪いのと、言いたい。

松井 そう、東京はひとつの巨大都市に見えるが、実はたくさん田舎の集まりじゃないかと。東京の地域のニュースというのにはね、多摩版とかなんとか版にちょっと出ますけど、たとえば杉並区の人口五十何万人なんて、地方に行くと大都市です。大都会なら、ちゃんとした放送局がひとつぐらいあるもんですよ。ところが東京では、そんな区や市が寄せ集められて生きざせられている。それを僕は、村を殺された状態だと思ってるんですよ。そこを少しでも活性化させたい。その意味で、ミニFMは、都的なメディアということになると思えます。

さは七五ワットですから、法定の電界強度一五ワットを換算した二・三・五ワットをかなり超えているのは間違いない。その限りでは、摘発したのがどうの、と争うことはできない。ただ、ミニFMの送り手側に目安として流布している「五〇〇ワット」というレベルでも、実際に測ったら六〇ワットにはなるでしょう。だから、たいていの所は、違法電波だろうということになる。

——現状では聴き手の数は限られたものでしょう。とするのと、放送する意欲というのは、「みんなに聴かれていたから」ばかりではないと思えますが。

松井 面白いくことを自由にやってみられる貴重な共同空間がある、ということでしょう。誰よりも放送して本人が喜んで。メディアの主流が活字から電波に移りつつある時に、個人だとして、使いたくせぬ電波メディアを持ちたい。それを使って何かやりたいという人間たち

矢野 マスメディアがカバーしきれないところを自分たち自身で拾い上げて、互いにコミュニ

## 編集部からのメッセージ

### 激動する政治、経済を見つめて

保守合同と左右社会党統一から三〇年。混沌とした社会状況の下で、保守も革新も、いま第二の脱皮を迫られています。一方、間もなく開かれる米ソ首脳会談。新たな東西関係の枠組みを探る歴史的な試みが始まるうとしています。「エコノミスト」は、唯一の本格的な硬派週刊誌として、激動する内外の政治、経済を見つめ続けています。

●11月5日号発売中/定価390円



ニケートしていく。自分たち自身の言葉でね。

松井 せめて市とか区とか、それぐらいの範囲で聴かせられたらなあ、基本的には思っています。実際には今のところ不可能だけど。情報化社会とい

て、大がかりな地域メディアの実験が始まっていますが、どう

いう情報でどういうコミュニケーションすればいいかは、まだわかっていない。そんな時代であれば、いろんな方法を模索すべき

ではないのか。ミニFMは、地域の人的双方向的コミュニケーションを実現し始めているんです。それが突然、強制捜査

の機会に、こちら側からアクションを起こしていく時期ではないかと考えてるんです。現行法のワク内の電波では、メディアとしては「点」でしかない。ウチは、同じ収録テープをいろいろの発信所から流して

### 摘発を「新時代」の突破口に

矢野 電波法六条にもついで、FM局設置申請をしたらど

が、それにしても東村山市の三分の一にも電波が届いてないんですね。「点」を「面」にしていく方法を考えていくことだと思ってるんです。中継アンテナでつなぐというのは、実用上は、あまり効果がないと思う。

自分たちがやってるミニFMの実態に即した主張にしていくなやり方で申請したら、どうなのか。却下されても、申し立てのプロセスとか、いろんな手続きをやりながら、今の都道府県一局主義というFMのあり方に対して、もう少し小さなエリアのものを認めていくのがどうして悪いのかということ

松井 我々っていうのは、リスナーと送り手が直結の関係ですから、企業が電波を狙うのは全然違うんですよね。我々が地域的に必要だと思ってる人間関係のメディアとして要求しているわけですね。会員が金を出し合う電波利用組合でもなんでも、形式はいわいわけだ。いうなれば、下から作る日本放送協会(笑)。

作り出す必要があるんじゃないか。松井 僕は開局の可能性を郵政省に打診してみたんですが、結局、財政がどうなのか、経営が成り立つのかというところじゃないんです。矢野 商業放送を作らせるというレベルではなくて、目的と趣旨を明らかにして、現在、

矢野 だんだん目的意識はつきりした所だけが残るようになってきましたから、今回の一件も飛躍の試金石にしないと。ただ、あえて電監的のいうと、電波を自由にさせるとしても、一定のルールはあってもいいんじゃないかと思う。実際、全く自由にすると混信、

妨害電波は避けられません。交通整理は必要だ、ということを押さえておきたい。引っ込んだ議論になりますけど。

をクリアしておきたい。「電波を市民の手に」のスローガンは正しくとも、簡単に言いがかりをつけられる状態では、争いになりません。そのうえでこそ、現在の電界強度の規制を緩める

方向への働きかけも有効になるのではないかと思う。宮本 三年前に、ある有力ミニFM局が、全国の二〇〇局以上を集めて全国組織を作ったんですが、どうやら儲かる

か、みたいなどころだったんで加わらなかつた。そこは、別のミニFMグループと生臭い争いもやってます。そんなこんなで、自分たちだけでやるしかないと思ってました。現在の電波

法への不満の声を挙げるのも控えてました。でも今回の摘発を、なんとか「ミニFM冬の時代」でなく、春の時代へのきっかけにできないかと、考え始めてます。

# 強権的摘発のアナクロロぶり

・和光大講師 粉川 哲夫

ミニFMとは何か? それは、猥褻である——というのが郵政省関東電気通信監理局や警視庁保安課の見解である。

これは、むしろ、彼らの正式見解ではないが、去る九月四日に東京都港区のミニFM局「KYFM」を急襲し、関係者を逮捕してしまつた彼らの強引なやり方を見ると、こう考えざるを得ない。

ミニFMとは、本来、電波法で誰でもが免許も申請もなしに自由に使うことが許されている「微弱電波」の許容範囲(発信地点から一〇〇メートル以下の電界強度)で送信する合法的なラ

ジオ局のことだ。ちょうど三年前の今ごろからマスコミの話題になりはじめ、一九八三年の春には、大学生や高校生のあいだでちょっとしたブームになった。喫茶店、デパート、歩行者天国の路上などにもミニFM局が出現し、主としてDJごっこを楽しんだ。また、欧米の自由ラジオやミニFMブームの自由

オを意識し、地域メディアとしてのミニFMを目ざすところも現れた。こうした現象は、「微弱電波」用のFM送信機が一万円以下で市販されており、たいいの家にはFMのラジオやラジカセがあるという日本の特殊な技術状況のなかではじめて生じたものだが、七〇年代の後半にイタリアやフランスで広まった自由ラジオ・ブームの間接的な影響も見のがせない。イタリアでは一九七六年以降、誰でもがFM放送をできるようになり、お隣のフランスでもその影響で(こちらはまだ非合法だったが)続

したニュースは、日本のマスコミでも報じられた。日本の放送がつまらない、FM放送が大都市に一、二局しかない、外国語放送がFENしかないといった不満も、ミニFMブームを煽った。いくら申請しても認可が下りないという日本の電波行政にうんざりしていた企業や事業家がミニFMにとびついたこともあった。

不自由なラジオ状況から生まれたミニFMは、やはり自由ラジオの一形式だと言えよう。フリー・ラジオでもよい。この「フリー」は、フリー・セックスの「フリー」である。フリー・セックスは、性を管

理する権力と硬直した性道徳に対する反抗として生まれたが、依然として日本の場合、セックスを、公衆の面前でそれを行えば罪に問われる。「微弱電波」というのは、その伝でいけば、ラブホテルの個室のようなものである。その囲いのなかでならば、あなたは今でも自由に出来るのである。一面において、それは、権力が電波使用の自由を極度に私的なレベルに閉塞することによって可能



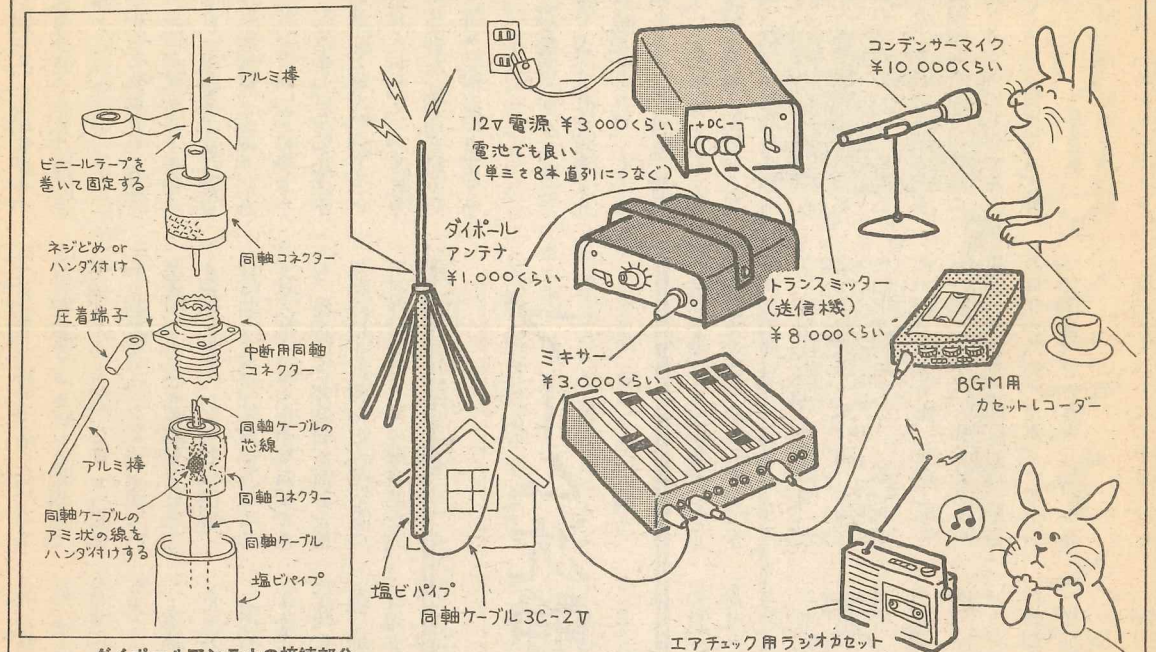
続自由ラジオ局が出現し、こう

がわ てつお 一九四一年東京生まれ。早大大学院修了、和光大学講師。批評家。著書に『主体の転換』『ニューヨーク街路劇場』『ニューメディアの逆説』など。

朝日ジャーナル



図説・ミニ放送局の作り方



ダイポールアンテナの接続部分  
開局に必要な機材と値段

◎アンテナ ダイポールアンテナの場合、太さ3mm、長さ「300÷周波数(メガヘルツ)×1/4」のアルミ棒を五本用意する。そのうち四本を圧着端子(アルミ製)で中断用同軸コネクタに固定し、三〇度くらいの角度に開く。残りのアルミ棒を取り付けた同軸コネクタと、同軸ケーブル(七五Ω)を接続した同軸コネクタを、中断用同軸コネクタでつなぐ。

塩ビパイプ(内径二〇mm、長さ五〇cmくらい)に同軸ケーブルを通し、下の方の同軸コネクタにはめこむ(イラスト参照)。

アンテナは普通のテレビアンテナと同じように屋根などに固定すればよい。

ダイポールアンテナのほか、セットになったFM受信用の八木アンテナ(八千円)を信用にかえて使ってもいい。ダイポールアンテナは全方向に指向性があるが、八木アンテナは一方に強い。

◎周波数 トランスミッターのつまみを回して設定し、モニター用ラジオを聴きながら、微調整する。ミキサーもモニターを聴きながら操作する。

◎その他 低価格のミキサーにはアンプが内蔵されていないので、ダイナミックマイクよりコンデンサーマイクを使ったほうが感度がよく、声がよく入る。

(値段は東京・秋葉原電気街で買う場合の目安)  
イラスト・鈴木真理

理を批判し「自由ラジオ」を提唱する粉川哲夫・和光大講師の理論に触発された局も少なくない。

そんなさまざまな流れが出てきたなかで九月四日、東京三田の「KYFM放送局」が電波法違反で警視庁に摘発された。代表(三)とDJ(三)の計二人が放送中に現行犯逮捕され、代表に罰金二〇万円が科せられた。同放送局の「違法電波」を警視庁に告発、摘発のきっかけを作ったのは電波のお目付け役、郵政省関東電気通信監理局である。

**前向き電波行政こそ急務**

同監理局は、「KY」を①許容限度の約五〇倍もの電波を出し、②スポンサーの広告を流している——との点で「ミニFM」とはいえず、むしろ海賊商業放送だ」と強調する。番組中に、あるDJが「これは違法電波だ」と発言していたのも、お目付け役としてのメンツを傷つけたらしい。

逮捕という手段を取ったことについては「警察の判断だから」と言をにがしたが、一方で「ほとんどの自称ミニFM局

〈電界強度と出力〉

ミニFMで一番の問題となっている電界強度Eは次の式で求められる。

$$E = \frac{28\pi\sqrt{Ph_1h_2}}{\lambda d^2}$$

これは、いっさいの障害物がない空間で出力Pワットの電波を発信して、dメートル離れた地点で受信した時の電波の強さ(ボルト/メートル)。電波の波長λ(メートル): $3 \times 10^8$ /周波数、発信地点の地上高 $h_1$ (メートル)、受信地点の地上高 $h_2$ (同)も影響するわけだ。この式から出力を求めると下のようになる。

$$P = \left( \frac{E\lambda d^2}{28\pi h_1 h_2} \right)^2$$

いま仮に、二階建ての屋根に、最もポピュラーな半波長ダイポールアンテナを立てて( $h_1 = 8$ メートル)発信、一階でアンテナを伸ばして受信( $h_2 = 2$ メートル)するものとする。周波数80メガヘルツ(=80×10<sup>6</sup>ヘルツ)なら、法定の電界強度である「発信地からの距離(d)100メートルの地点でE=15マイクロボルト(15×10<sup>-6</sup>ボルト)」以下にするには、式にそれぞれの数値を入れると(π=円周率)。

$$P = \left( \frac{15 \times 10^{-6} \times 3 \times 10^8 \times 100^2}{28\pi \times 8 \times 2} \right)^2$$

≒0.16×10<sup>-6</sup>(0.16マイクロワット)

という答えが出る。

実際には、この出力では家屋や他の電波による干渉などのため、100メートル地点でのEは15マイクロボルトをかなり下回り、もっと出力が大きいてもよいことも多いのだが、種々の環境要素によって、出力の適正値はさまざまという。また出力が同じでもアンテナを高くすれば電波が遠くまで届くことも、この式からわかる。

が、実際には許容限度を越す電波を発信しているだろう」と同監理局・中村頭主任監視官の発言からは、ミニFM局への「一罰百戒」の意図も覗く。

現実問題として、送信機が一万〜二万円というのに電波の強さを測定する機材が高価(一式一〇〇万円ほど)で入手しにく

かたり、送信機の出力レベルがはつきりしなかったり、放送する側が合法かどうかかわからないケースも多いといわれるのだが、幡野忠正・同監理局電気通信部長は「FMは、まずNHKや民放という公共放送のための電波です。市民には市民バンドがあるのですから、あえてFM

でというなら、法の枠内でやっけない」と、その幡野部長が「総論としては電波は自由にと、私も考えています。ただ、完全に自由にするると混信など逆にならざるを得ないから、私たちはその交通整理をしているだけ」

郵政省電波技術審議会の最近

の答申に次のような記述がある。

「将来、電力の小さな無線の利用が増加するとみられるので何らかの対応が必要になろう」

これは、「あくまで日進月歩の技術革新を背景に、欧米からせっつかれている自動車電話、コードレス・テレホンといった電波商品の輸入自由化要求などを意識したもの」(同監理局)という。ミニFM愛好家たち、ここはひとつ、「外庄」の強まりを期待するということになるだろうが、なにがごとく「外庄」任せというのは、何より我が郵政省の情けなさを証明することにならないか。

(朝日新聞立川支局・橋本聡、本誌・岩崎達)

〈最新刊〉

講義ノート近代経済学

木村憲二・藪内繁己・大川昌幸編著  
マクロとミクロの基礎理論とその応用を、多数の図版を使い、また数学的手法を最小限に抑え、初学者向けに易しく述べた、ハンディな入門書。 A5・246頁・2200円

現代国家の諸相

横越英一編 <国家論の復権>が望まれている今日の状況にあって、政治学・経済学・法学などの様々な視点から国家機能を中心に分析し、現代国家の諸相を論じた学際的研究。 A5・302頁・2700円

合理的期待論

S.M.シェフリン著/宮川重義訳  
ケインズ主義経済政策への批判から生まれた「合理的期待論」の有効性を、マクロ、ミクロの両経済学分野で、実証的に分析した先駆的な書。 A5・230頁・2200円

危機の政治学

安部純純・石川捷治編  
すぐれて今日的意義をもつファシズム論や政治過程論を、共同研究のなかで、根源的・総体的に捉え直し、科学的危機論構築への端緒をさぐった第一弾。 四六・304頁・2400円

入門 現代の経済社会

森岡孝二・林聖太郎・佐々木雅幸編  
今日の世界経済と日本経済の構造やそれらが抱える重要問題などを、トピカルなテーマと最新のデータで、分かり易く系統的に述べた経済入門。 A5・300頁・1700円

昭和堂

京都市上京区下長者町通新町西入  
TEL (075) 431-2213 振替京都6-9347

ASAHI 朝日ジャーナル

# Journal

卑怯なり

中曽根康弘君

旧友・東郷民安の告白

喧嘩の仕方

総括・立花 VS 渡部論争

〈MFM〉の楽しみ

手づくり電波の飛ばし方

日航事故の自衛隊批判

総指揮官「弁明」のお粗末

新人類の旗手たち ②9

樋口尚文 映画批評家

●新連載 秋島百合子

この世はすべて舞台

●田中康夫

ファティッシュ考現学

●はいすくーる落書

11/8

280円

